

令和5年度 北海道森林管理局第2回分収林評価委員会の議事概要

1. 日 時 令和5年12月13日（水）10時00分～11時30分

2. 場 所 北海道森林管理局 4階 中会議室

3. 議 題 分収育林契約の国による費用負担者の持分の買受けについて

第1号議案 宗谷森林管理署 鬼志別国有林 1030は林小班の買受けについて

第2号議案 宗谷森林管理署 中頓別国有林 2016は林小班の買受けについて

第3号議案 宗谷森林管理署 敏音知国有林 2067は林小班の買受けについて

第4号議案 上川中部森林管理署 愛別国有林 58は林小班の買受けについて

第5号議案 上川南部森林管理署 上トマム国有林 245は林小班の買受けについて

第6号議案 渡島森林管理署 中里国有林 4318は林小班の買受けについて

4. 出席者

委員長 菅澤 紀生

委 員 奥村 篤、濱田 修弘

北海道森林管理局 森林整備部長、森林整備第一課長、資源活用第一課 課長補佐、
森林整備第一課 監査官、分収林係

宗谷森林管理署 事務管理官

上川中部森林管理署 総括森林整備官

上川南部森林管理署 総括森林整備官、森林情報管理官

5. 議事概要

委員による審議の結果、持分買受金額は適正に評価されていると判断された。

なお、主な質疑応答は次のとおり。

委員：分収育林について契約当時、契約者は契約する地域を選ぶことができたのか。

局：分収育林については公募により行っているため契約する地域は選ぶことができた。

委員：これまで北海道の国有林においては集材について積極的にフォワーダの導入を進めていたと思うが、トラクタ集材によるところもあるのか。また、積算上はどうなっているのか。

局：現在、現場での作業は、ほぼ100%フォワーダで行われているところであり、積算上もフォワーダにより算出している。

委員：全国的にもフォワーダ集材が主流となっているのか。

局：地域事情により、架線集材等を行っているところもあるがフォワーダによる集材が主流となっている。

(第 1～3 号議案関係)

委員：1 号議案について 2 号、3 号議案と比較して広葉樹における立木価格の基準単価が高いのはなぜか。

局：1 号議案については 2 号、3 号議案よりも品質が良く、太い広葉樹が多くあるため立木価格の基準単価が高くなっている。

委員：1 号議案について 2 号、3 号議案と比較して生産経費単価が高くなっており、内訳を見ると広葉樹の運材にかかる経費が 2 号、3 号議案よりも高くなっていると見受けられるがそれはなぜか。

局：広葉樹については通直な針葉樹と比較して形状が整っていない等の理由から生産経費単価が高くなるが、1 号議案については 2 号、3 号議案と比較して広葉樹が多いので生産経費単価が高くなっている。また、分収育林地から市場までの距離が 2 号、3 号議案と比較して遠くなっていることも経費が高くなっている理由である。

委員：2 号議案について 1 号、3 号議案と比較して樹木の本数が多くなっているのはなぜか。

局：間伐回数が 1 号、3 号議案と比較して一回少ないことから、このことも一因となり本数が多くなったと考えられる。

委員：2 号議案について 1 号、3 号議案と比較して搬出路作設等経費が高いのはなぜか。

局：現地の傾斜が 1 号、3 号議案と比較してきつく、現在の新しい作業道の作設基準に合わせた新設の道が多くなり既設の道の利用率が低くなったこと。また、集材路も多く必要になるため。

(第 4～6 号議案関係)

委員：5 号議案について林地の傾斜も急で作業条件は厳しく思えるが、搬出路作設等経費が 0 円となっているのはなぜか。

局：部分的に傾斜が厳しいところがあり図上では急に思えるが、現地は作業上安全に問題のない程度であり既設の道を利用できるため。

以上